

式 辞

昨年発生した台風十二号は、十津川村を直撃し大災害となりましたが、皆様の暖かいご支援・ご協力のもと、復旧・復興に向けて着実に進展しております、大変ありがとうございました。

さて、十津川村は、古来より、紀伊山地の急峻な山々の懷に抱かれながら、暮らしの知恵や生命をつなぐための糧を山からいただき、質素ながらも豊かな心で「自然」への感謝の念を持って山づくりに魂を捧げてきました。そのお蔭で、山は活気に満ち溢れ、便利で豊かな暮らしを手に入れました。

このたび、橿原市曲川町イオンモール橿原に、十津川の森木灯館と命名した省エネ住宅を建築しましたが、この地は、もともと十津川村の材木を販売していた市場でありました。それまでは、筏を流し十津川村の下流である新宮市まで運んでいましたが、電源開発によるダム建設により林業も大きく変貌し、陸送の時代になった結果この地で十津川原木市場を開業し販路を求めるとともに都会の情報を収集し、それを受けて市場に反映しておりました。

しかし、外国材の輸入や生活様式の変化により、村産材の売れ行きが阻まれた結果、林家の山離れが進み、山は次第に荒れて行き、この原木市場も昭和六十三年に閉じることになりました。

奈良県の五分之一を占め、その九十六%が森林の我が村に「自然」の生命の営みによる豊かな土壌を形成し、健全な森林を蘇らすためには、従来の「林業」の考えに捕らわれない新しい「発想」による林業への転換が急務であり、十津川フォレスターの育成により急峻な山で育った力強い木材を搬出し、公共施設の木造省エネ化や省エネ住宅の推進はもとより、村民の元気の入った木製品づくり、燃料利用などにより、伐った木を余すことなく使い、山元から販売・消費までをひとつのベクトルにする「十津川式」六次産業を展開したいと考えています。

世界の潮流は、大量生産・消費・廃棄を行う物質的な豊かさを求める社会から、身近な資源を利用し、自然との健全な関係により人と自然の共生を目指した持続可能な社会へと移行しています。

この時代の転換期に、私たちは、木を使い、山を育てる昔の暮らしに見ならい、森林や環境の再生を目指すシンボルとなる公共施設の建築のため、ドイツ公認建築士森みわ氏に設計をお願いし、実現したものであります。

十津川材や自然素材を効果的に使い、五感を通じて森林を感じる「十津川の森 木灯籠」は、厳格なヨーロッパの省エネ基準を満たすものであり、そのバックボーンとなるように森林づくりを進めていきたいと考えています。大地にしっかりと根を張る災害に強い杉・桧を育成し、地球温暖化の原因である二酸化炭素の吸収源ともなる自然環境を調節する森林をつくるため、可能な限りの間伐、全幹搬出、利活用を進め、六次産業化を図ることに使命と責任を感じています。

「十津川の森 木灯籠」では、そのような村の取組みをお伝えし気軽にご参加いただく場として、住宅建築のみならず、小さな木の小物や木製家具、様々な森林のイベントにも「木の灯り」を込めて皆様にお届けし、さらに、皆様からいただいた心を十津川の山に還し、森林や環境を再生するという循環を目指していきます。

木にこだわり、環境に配慮した施策を展開し、豊かな水源や健全な大気に変えて多数の皆様にお届けできるような山づくりが村の復興の基軸になることを確信しています。

「木を出します」

「木を使います」

「木を植えます」

そして・・・ 村民みんなが

「やる気」を出して、笑顔になれる村をつくります。

十津川村の取組みに対しまして、ますますのご理解、ご指導をお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

平成二十四年四月二十三日

十津川村長 更谷 慈禧